

港 区 巡 検

徳 丸 史 絵

4月8日、もうすぐ新学期が始まる頃、かねてから計画のあった2年生の1日巡検が行われた。

“10時に銀座線虎ノ門駅の文部省への出口から出たところにある久保講堂前集合”であった。しかし、文部省への出口から出ても久保講堂はない。皆、集合場所がわからず、慌ててしまった。

出発からアクシデントがあり、先行きが思いやられたが、どうにか栗原先生とも出会え、やっと巡検が開始された。

ホッとしたなごやかな雰囲気の中、アークヒルズへと向かった。虎ノ門周辺とはガラリと変わって、アークヒルズへ向かう坂道は、人通りも少ない、静かな落ち着いた空間であった。アークヒルズは、あの有名な森ビルが建設したインテリジェントビルである。高度情報化社会において、企業は最新の情報を手にするために、都心に事務所を構える。それが集まったものがインテリジェントビルだ。ここアークヒルズは、昭和61年に完成したばかりの新しいビルである。噴水があり、モニュメントがあり、でいかにも“現代的”な空間を作り出していた。昔は木造民家が密集していた谷ぞいの場所であったが、森ビルが1軒ずつ買収し、再開発をして、このように現代的な空間となったのだ。

アークヒルズを出て、六本木を通り、麻布十番へと歩いた。交通の激しい六本木通りから麻布方面への道に入ると、また急に静かになった。この辺りには学校や大使館が多いせいであろう。学校や大使館、公的施設は、江戸時代の大名屋敷跡を利用して作られたものが多い。坂を下ると麻布十番。今度は下町的で庶民的な商店が立ち並ぶ。もともと江戸時代には台地上に大名屋敷、台地下に町人街が形成されたことによるのだろう。

ここ麻布十番で一時解散。各自、思い思いの昼食をとる。私達は老舗のそば屋に入った。珍しい種類のそばも多く、おいしかった。満足して外に

出ると、雨——。午前中の空模様からは雨が降ると思えなかったのに……。私達は5人いて、傘持参者は1人。途方に暮れていると、店の人が出て来た。「これいらない傘だから使いな。」サッパリした好意に感激してしまった。さすが江戸っ子。下町の人情。急に降り出した雨に皆困っていたが、私達の心は温かくなった。

善福寺へ。善福寺は弘法大師伝説もある寺だ。有名な大イチョウの木もある。雨のため、急ぎ足となる。善福寺から慶応義塾大学へ。

麻布十番を過ぎるとまた、学校、大使館エリアとなる。今度は、大会社の寮、高級マンションもたくさん建っている。これらは、高台にあった邸宅の跡に作られたものという。邸宅といえば、三井クラブなども残っていた。高台エリアは高級感に満ちている。大使館が多いので、外国人もよく見かけ、異国情趣がかもし出されている、不思議な空間であった。慶応では重要文化財に指定されている図書館を見た。このような場所にある慶応義塾大学にそれなりのイメージが作りだされているのは当然だ、としみじみ感じた。なんとなく学生がハイクラスに見えてしまう自分がちょっと悲しかった。

今回の巡検は多くの要素がぎっしりとつまっていた。特に二項対立する要素、江戸時代と近代、日本と外国、大衆的なものと上流階級的なもの……。坂の上と下でガラリと変化する空間。これこそ田舎にはない、都市の姿だろう。都市は多様なものを巻き込み、抱えてゆく。しかしその多様な要素は秩序づけられ、二項分化され、あるべきものがあるべき場所に置かれて、都市として安定したまとまりを形作っていたのだろう。江戸—東京というこの特殊な空間の意味を、新たに考え始めさせるような、非常に中味の濃い巡検であったと思う。

(4月8日 栗原教官指導)